寄書

水畫に志せし最初の動機

熊登　池野秋花

自分は元來沈鬱な性質で、小學時代の時なぞは學科をよそに、始終小說ばかり讀んで、餘計な涙を流した事も數へ切れぬ程であるで繪畫はと言ふと可なりだッたので、時折選拔されて展覺會に出された事もあつた。處が小學卒業後今は二年前の昔である醫學を志したので、傍ら例の小說を讀んで居ッた。今から考へて見れば可笑しかッたもので、十六歲の時の一月七日であッた。彼新小說の卷頭小說だッた島崎藤村氏作、水彩畫家を讀んで、其の主人公の性質が、自分とあんまり酷似して居るので、潛々と涙を流して卷を措く事能はなかッた。極端に言へば、其れが抑々の動機だッたので、只何となく、まるで夢みるやうに恍(ぼつ)となッて、自分も其の主人公の樣な水彩畫家になッて一生をすごさうと思ッて、只今も猶ほ熱心に研究して居ります。

評　水彩畫家よりも御醫者さんの方がようございますよ。

初めて戸外寫生を試みし時の感

名古屋　李有

私が畫をちよい〳〵書く樣になりましたのは丁度四五年前の小學校時代で其の頃は日本畫のみでした丁度昨年の冬休みに京都の學校へ往つた友人が國へ歸つて來て君は日本畫僕は水彩畫で一つスケッチに行こうと云ひますから初めてはあつたが出掛て往て見事に失敗しました其れが口惜しいので遂に水彩畫をやるやうになつたのですが素が貧書生の事で手本を買う事は出來ず織田さんの水彩畫法と云ふ本を買つてよみました夫から此夏休みにも先の友人と共に寫生をしましたが今度は少しはよく出來て嬉しく思ひましたどうも寫生は戸外でやるに限るやうです興味も多く又色彩等も眼前總てが自然ですからどうしても實物に近い色が出ます吾々貧書生には兎角野外寫生が水彩畫練習の最も早や道だと思つて居ります否信じて居ります

評　色ばかり實物に近くてもいけません、形も調子も大切です。

各地寫生會

●**ヱハガキ**朔日會○河內國河南惠我里所在○會員、中學生及地方有志者數名○毎月一回朔日參集○自筆の繪ハガキ出品陳列○會員の批評及推選にて等級を分ち賞品を與へ同時に交換を行ふ(辻本靜波氏報)

○本號の口繪は目下傳記掲載中の英國の畫家**デビツト、コツクス**氏千八百四十一年の作にして色調に於て褐色多く近世的明快の趣きを缺けど當時に在ては極めて進步的のものなるべく空及樹木の描法に於て吾人の學ぶべき點極めて多かるべし

○**スコツト**氏のチョーク畫は木炭用紙に描きしものにて極めて簡撲なる描法なれば初學の人の臨本に適すべし

○次號よりは榕村氏の色彩應用論を綴載すべし

○次號の石版畫三枚は總て赤城山の寫生畫を出すべし